

特集

四万十川桜マラソン

走り出す足、支える手。
桜が咲く限り、この感動を未来へ

春の訪れとともに、四万十町を彩る桜並木。今年も3月23日、桜の開花には少し早かったですが、春の四万十川沿いを駆け抜ける「四万十川桜マラソン」がにぎやかに開催されました。3町村合併の象徴として始まったこの大会。17回目を迎えた今、ある試練が…。そんな中、ランナーを支えるボランティア、応援で力をもろうランナー、みんなで創る感動の「走ル旅」の物語。皆さんの力で、この「感動」を未来へ！



あの日の感動！
桜マラソン
配信公開中！



写真は過去の大会のものです



1 上宮沈下橋ではランナーも立ち止まって記念撮影 2 沿道からの声援に笑顔で応えるランナー
3 暑さの中でランナーを支えた給水所のボランティアの皆さん 4 ゲストランナー熊切あさ美さんも笑顔で応援！

「みんなが楽しんで、
笑顔で帰れる大会へ」

「ランナー、ボランティア、協賛団体、町民の皆さん。この大会に関わるすべての方に感謝ですね」。そう話をしてくれたのは、この大会の実行委員長を務める川上哲男さん。
大会の一番の魅力を尋ねると、「春の四万十川の景色が楽しめるこのコース！」と誇らしげに答えてくれました。ランナーの定員割れやボランティア不足といった近年の厳しい状況については、「しっかりランナーの声に耳を傾け、分析しながら大会の魅力度を高めていきたい」と。そして「ランナーから選ばれる大会へと、これからは育てていきたい」と、今後を見据え語ってくれました。



四万十川桜マラソン大会実行委員会
実行委員長 川上 哲男 さん

町民の親睦と
新町の発展を願って…

四万十町合併を機に、平成21年に始まった「四万十川桜マラソン」。旧3町村の町民の親睦と新町の発展を願い、窪川地区、大正地区、十和地区を走り抜ける片道コースとなっています。

沿道の桜が咲き誇る中、ランナーたちは四万十川の雄大な流れを横目に、地域の方々の温かいおもてなしと声援を受けながら、思い思いにゴールを目指します。

近年の健康志向の高まりがマラソンブームに拍車をかけ、この大会も1,600名を超えるランナーの申し込みがあるなど、今では四万十町を代表する一大イベントへと成長しました。

大会の成長を支えてきた3つの絆

1,000名を超えるランナーが、6時間という制限時間の中、42.195km先のゴールを目指す四万十川桜マラソン。この大会は、「走ル旅」とも称され、毎年その旅の道中で、さまざまなドラマが生まれます。

ランナーの「走りたい」という情熱、ボランティアの「支えたい、喜んでもらいたい」という思い、そして地域住民の「盛り上げたい」という温かいおもてなし。この3つの絆が重なり合うことで、「感動」を生み、この大会は成長してきました。

今年も964名のランナーを、466名のボランティアが支え、沿道や玄関前、自宅の2階から多くの住民の皆さんが声援を送りました。

このような温かい声援やおもてなしは、ランナーたちを励まし勇気づけます。そしてまた、ボランティアや地域の皆さんも、ランナーの一步一步前に進む懸命な姿から、元気をもらい、おもてなしの心が一層育まれていくのです。

試練の時、岐路に立つ桜マラソン
あなたの参加が力になります

長年、多くの方々に感動を与えてきた桜マラソンは、今、試練の時を迎えています。

コロナ禍以降、全国的にマラソン大会の定員割れの状況が続いており、この桜マラソンでも、令和4年度から2年連続で定員割れするなど、厳しい状況となっています。その影響により参加費は減少し、大会運営費の工面も課題となっています。そして、何より深刻なのが、これまで大会を支えてきたボランティアの不足です。

地域の高齢化が進む中、桜マラソンは今、岐路に立たされており、このままでは近い将来、大会の継続が困難になるかもしれません。

この試練を乗り越えるためには、皆さんの力が必要です。ボランティア、応援、ランナー、どんな形でも構いません。一人でも多くの方が、この桜マラソンに携わることが何よりも重要です。

「四万十川桜マラソン」を未来へつなぐために、皆さんの力が必要なのです。